報告書

岩手県大槌町における 「音楽による生きる力をはぐくむ事業」に関する 調査・分析・評価 ~エル・システマジャパンの活動の社会的インパクト評価~

2017年3月31日

慶應義塾大学 SFC研究所

岩手県大槌町における「音楽による生きる力をはぐくむ事業」

一般社団法人エル・システマジャパンが実施する岩手県大槌町における「音楽による生きる力をはぐくむ事業」は、大槌町の子どもなら誰もが参加可能な音楽教育プログラム。音楽を核にして子どもたちが成長し、子どもたちの成長を通じて地域全体が活性化することを目指す。東日本大震災後、子どもたちの心のケアを目的に大槌町では2014年より事業を開始し、弦楽器教室の開催と発表会・イベントの開催に加えて、徐々にではあるが、公教育支援を実施する。現在では教室に約20名の子どもたちが、公教育支援で約70名の子どもたちが参加している。また、子どもにとどまらず、80歳以上の人も参加する大人のための弦楽器教室も開催しており、地域のつながりを生み出すユニークな活動として徐々に拡大している。

弦楽器教室・大人の教室の実施



公教育支援(部活動支援)



自主開催のコンサートでの演奏の様子





その他の地域団体と協働しての演奏会の様子

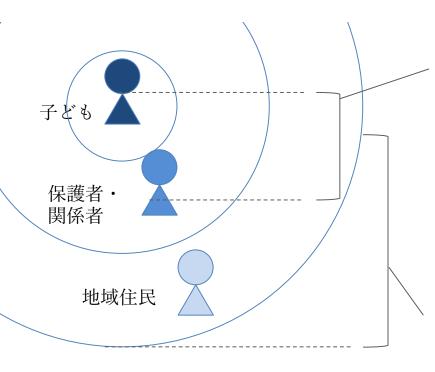




子どもたちの成長と地域の活性化につながる

調査手法と調査範囲

「音楽による子どもたちの成長」および「地域の活性化」を可視化するため、参加者を含めた<u>地域の人々が自ら参加するインタビューに重きを置いた調査を実施</u>した。複数年度の調査計画とし、今年度は特に子どもたちの成長に焦点を置き、関係者からの直接的な声の収集、集合化と言語化を行った。そこから各アウトカムを明確にし、アンケートを用いてより広い関係者からの期待度・実現度を明らかにすることを目的とした。次年度以降、さらに地域への波及効果を可視化することを想定している。



2016年度の調査範囲

- 1. <u>参加者・地域住民間の対話を促し</u>、関係者間のつながりを強化する
- 2. 事業がもたらす子どもの成長を<u>参加者・地域住民間</u> の対話と声を通して言語化
- 3. 子どもの成長に関するエル・システマジャパンへの 期待度と実現度の可視化
- 4. 一部の関係者への波及効果の言語化及び期待度・実現度の可視化

<u>2017年度以降の調査範囲(予定)</u>

1. 地域全体への波及効果の言語化及びその期待度・実 現度の可視化

調査結果の要旨

岩手県大槌町における「音楽による生きる力をはぐくむ事業」に関する調査・分析・評価を通じて、参加者・関係者の声により実施事業の成果・課題と期待及び今後の展望は下記のようにまとめられる。

成果

- 参加する子どもが「音楽を自由に楽しむ」ことを中心に複数の成果が認識されている
- 実現度が高い項目には「自由に友だちや地元の人と音楽を楽しむ」「地元のことを好きでいる」 「努力すること・できたと思うこと」等であり、地域の人との交流も促されていることが示唆され た
- 子どもたちが自分を自由に表現できる居場所として機能していることが示唆された

課題と 期待

- 参加者人数が少ないと認識されており、今後より多くの参加者が望まれている
- 教室・地域間で提供される価値が異なるという認識が特に関係者からあり、今後よい効果については共通化を志してほしいという声があった
- 今後さらに成果として求められる項目は、子どもたちが「(音楽を通じて)地域がいきいきとすること」「自信を持つこと」「リーダシップを身に着けること」等が挙げられた

今後の 展望 (提言)

- 将来的には子どもたちが地域に貢献することを望む声が多い
- 開始して2年余りであり、今後も子どもの成長と地域の活力のために、実施事業の継続を望む声が 多く挙げられたためより効果的な形での事業継続を検討する
- 団体のビジョン・ミッション・バリューを明確にしつつ、地域や教室間でどのような価値創出を共通とするのかの検討を含め、評価結果を組織や運営体制の維持・改善に役立てる

調査全体の流れ

インタビュー 実施

- 各関係者へのインタビュー・ワークショップの実施・
- 対象の関係者(協力が得られる範囲で抽出)
 - 活動に参加する子ども・保護者
 - 団体の職員
 - 行政関係者や学校関係者
 - その他の地域住民等
- 質問内容
 - 実施事業に関わった背景
 - 現在の関わり
 - 実際に感じている期待・成果や課題

インタビュー手法

- 関係者間の対話や気づきを促すよう分類の近い対象者へのグループインタビューを主体
- ワークショップは4~5名のグループでの自発 的に議論を促す設計
- アウトプット:ヒアリングメモ作成

ロジックモデル 作成・ 関係者分析

- インタビュー・ワークショップからの項目抽出と頻・ 出度整理
 - 頻出の項目を類似項目で整理
 - 各項目のインタビュー・ワークショップ中で・ の頻出度をカウントし、並べ替え
- 項目のインプット・アウトプット・アウトカム(初期・中間・最終)としての整理
 - 団体のミッション・ビジョンと照らし合わせ

ロジックモデル作成

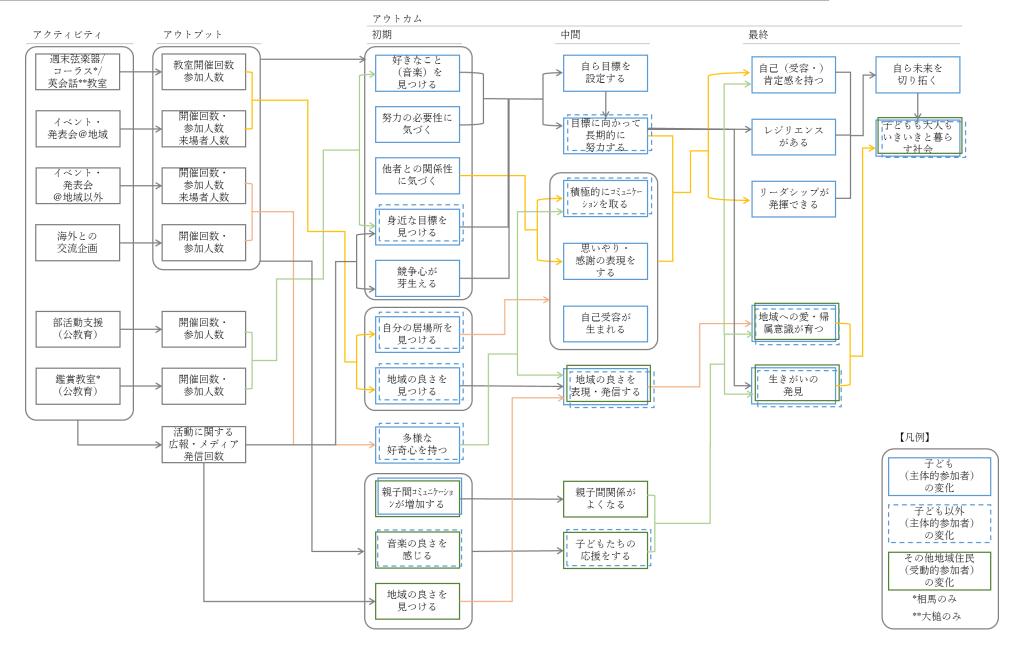
- インプット~アウトカムまでを並べ、その因果関係を仮説でつないだ
- 項目の対象者整理と対象者セグメンテーション
 - 多くの項目は子どもに関するもの
 - 子ども以外への効果は別途その項目を追記
 - 関係者を活動の関与度別にセグメンテーショ ン下

アンケート 実施・分析

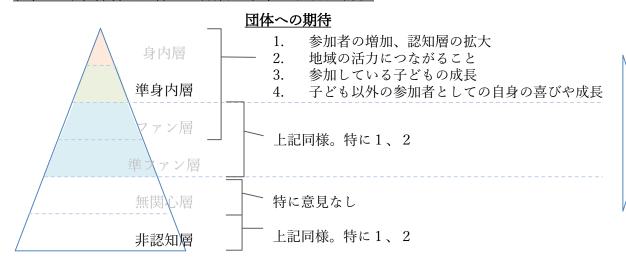
- アンケート項目の作成
 - ロジックモデルに基づき、各項目の期待度・ 実現度を可視化するためのアンケート作成
 - ・ 質問項目は約50項目
- アンケートの実施
 - アンケートを対象者に配布、各自回答を依頼

- アンケート分析
 - 回答の実現度・期待度のそれぞれ分析
 - 実現度/期待度の計算で各項目の実現率を算出
 - 実現率比較による関係者間・地域間の状況の 比較

作成されたロジックモデル:参加者・地域住民へのインタビューやワークショップを通じて得られた声を抽出して作成



現状の対象者層の団体への期待と現状の認識・評価



現状の認識・評価

- 1. 複数の対象者から、参加している子どもの「友人や地元の人と共に音楽を自由に楽しむ」に関する項目について成果が認められている
- 2. いずれの層からも参加者・認知する人びとの拡大 が最も多く期待されている点である
- 3. 団体の活動を認知していない層も一定数いたが、 本調査を通じて知った対象者は肯定的に捉えることがほとんどであり、今後認知度が高まればファン層・準ファン層につながると考えられる
- 4. 教室に参加する子どもの数が少ない。また、公教育支援については開始がまもなく、認知がほとんどされていない状況であった

<u>今後求められることと実施事業の関係者分布の分析</u>

今後求められること

① 参加者数の増加を通じたつながりの強化:

学校経由での参加の募集や公教育支援の拡充により、直接的・間接的に参加が可能となる子どもの数を増やすことが望まれる。特に中学生以上への支援方法等については検討が必要である

② 地域内での認知度向上・地域住民の巻き込み:

発表会やその他の地域での活動、地域の媒体を使用した広報等丁寧なコミュニケーションを通じ、地域住民からの認知度向上とより自発的な参加が望まれる

③ 子どもの地域への愛情や地域への貢献意識の向上:

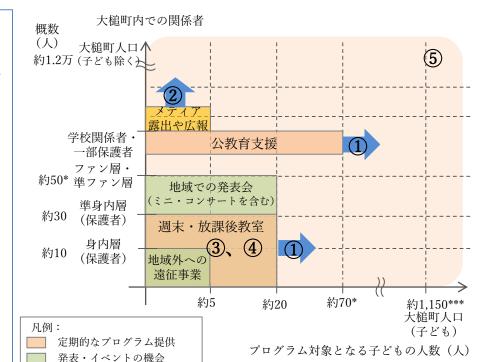
地域に関わるプログラムや指導を充実させることで、子どもの地域への愛情や帰属意識を引き続き高めていくこと、それを通じた地域への貢献意識が向上されることが地域住民から望まれている

④ 体系化されたプログラム開発:

アウトカムに近いほど多くの項目は低実現とされ、今後継続して活動を続ける中でより効率的にプログラムが実施されることが望まれる。他地域(相馬市)での事例も活かしつつ、体系化されたプログラムを実施することが望まれる

⑤ 団体の理念や組織運営に関する整理:

人材育成や理念の共有等が体系化されていないことが一つの課題として考えられている。今後の展開に向けて整理することが望まれる



その他メディア広報等